

**C-2及び次期電波情報収集機の  
入間基地への配備について**

**平成28年8月**

**防 衛 省**

## 事業の概要

- 航空自衛隊が入間基地で現在運用している輸送機（C-1）については、現在、その後継機として輸送機（C-2）を開発中です。C-2の開発は、過去の不具合を教訓として十分な対策を施した上で順調に進捗してきているところであり、平成28年度末には開発完了する見込みです。
- 平成29年度概算要求において、C-2×3機の取得に必要な経費を計上しているところ、3機のうち、1機を平成32年度以降、入間基地に配備することとしました。
- また、現行のYS-11EB電波情報収集機の後継機として、C-2の試作機を活用して開発している次期電波情報収集機については、平成29年度より、入間基地で飛行試験を含む搭載機器（次期機上電波測定装置）の試験評価を開始することについて、昨年説明したところですが、同試験評価が問題なく終了した場合、次期電波情報収集機を平成31年度以降、入間基地に配備することとしました。
- なお、平成29年度概算要求では、C-2及び次期電波情報収集機の入間基地配備に関連する経費（誘導路の調査設計等、約1.6億円）も計上することとしています。

# C-2及び次期電波情報収集機の概要

## C-2

**搭載しゃ下システム**  
最新システムによる省力化、装備品の機内収納、コンピュータによる空中投下の自動化

**空中受油機能**  
空中受油による航空輸送力の更なる向上

**自己防御**  
レーダー警戒装置、ミサイル警戒装置、チャフ・フレア射出装置

**共用化**  
海自P-1との機体構造等の一部を共用化し、低コスト化

**戦術飛行管理機能**  
柔軟な戦術飛行計画の立案、変更及び実行

**エンジン**  
高信頼性、低燃費、洋上飛行能力

**スラストリバーサー**  
自力後進による地上機動性の向上

**コックピット**  
ヘッドアップディスプレイ、マルチファンクションディスプレイ等の統合表示、ナイトビジョンゴーグルの対応

**フライバイワイヤ操縦システム**  
良好な操縦性と安全性の向上

## 次期電波情報収集機

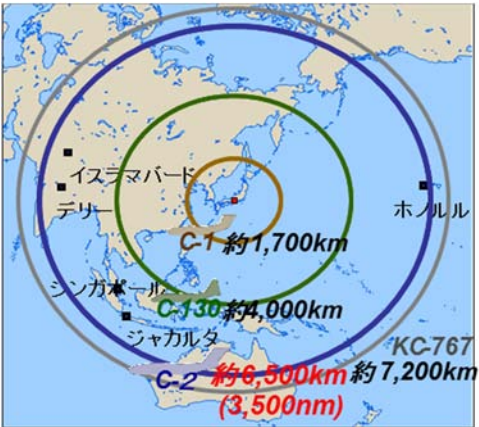
機外に各種受信アンテナを収納するためのアンテナドームを設置

機内には、受信する電波情報の記録・分析のための機材を搭載

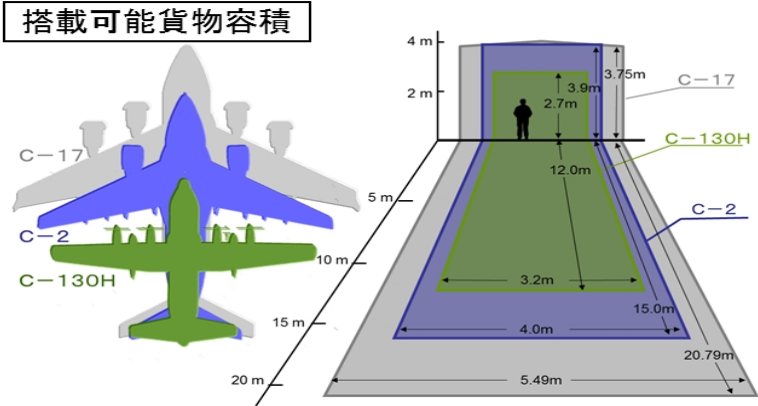
機内イメージ

性能諸元 (C-2)	
全長	約44m
全幅	約44m
全高	約14m※
エンジン	GE CF6-80C2
推力、発数	約50,000lb × 2
貨物搭載量	約30t
速度性能	M0.8

### 航続距離 (C-2)



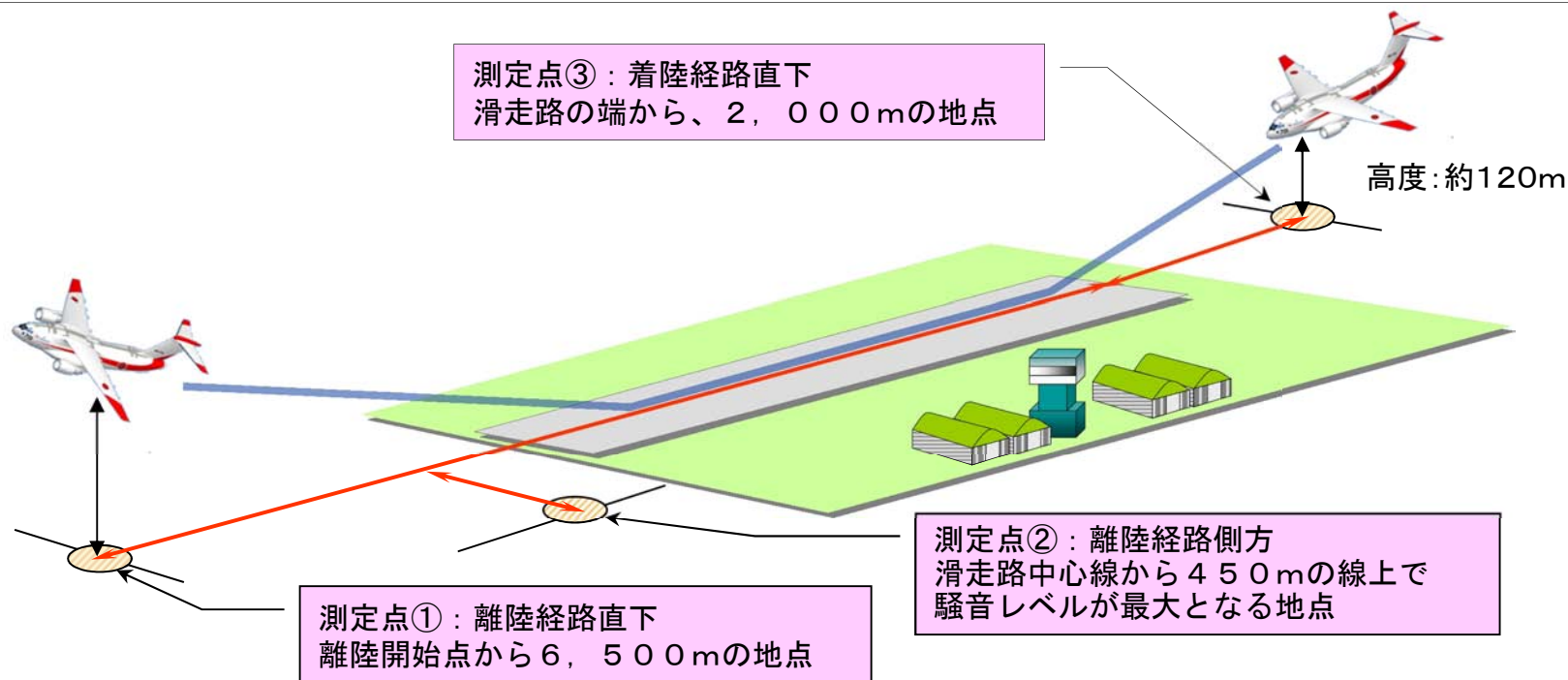
### 機体規模・貨物室容量 (C-2)



※次期電波情報収集機の全高は約15m

## C-2の静粛性

- 国際民間航空機関（ICAO）では、民間ジェット機の騒音について、離着陸時の3点を測定点とした基準を定めており、C-2は当該基準を満たすよう設計しています。
- なお、現有機のC-1と比較すると、C-2はより騒音の少ない航空機となっています。



<参考> 実効感覚騒音レベル※[単位: dB (デシベル)]

騒音測定点	C-1	C-2
測定点①	約99	約87
測定点②	約107	約93
測定点③	約103	約97

※:実効感覚騒音レベル(EPNL: Effective Perceived Noise Level)

音の「やかましさ」を基本とした騒音レベルに騒音の持続時間とエンジン特有の不快感の補正を加え、航空機1機の「より正確なやかましさ」を表現したもの。

## 関連施設の整備

- 平成29年度概算要求において、C-2及び次期電波情報収集機の入間基地配備に伴う関連施設として、誘導路改修並びに航空燃料貯蔵施設及び弾薬作業所の新設のための調査設計（約1.6億円）を計上しています。
- 平成30年度以降は、上記施設の本工事等を予定しています。

